



DREAMBOAT

2006.04

NEWS RELEASE

株式会社ドリームボート

**WEB2.0 時代に最適化された、デジタルコンテンツ配信システムが登場します。
「コンテンツ配信は、Secure P2P + WEB2.0 の時代へ」**

株式会社ドリームボート(本社:京都市中京区、以下「ドリームボート」)は、このほど Peer to Peer (以下「P2P」)技術を基本とした、セキュアな WEB2.0 時代に最適化されたデジタルコンテンツ配信システム「SkeedCast」を開発しました。

また、この「SkeedCast」は、株式会社インターネットイニシアティブ(本社:東京都千代田区、以下「IIJ」)が持つ、安定したインフラをベースに配信する事が決定し、高い信頼性を獲得しました。

デジタル配信の諸問題を一挙に解決。しかも簡単な操作性。

「SkeedCast」は、動画配信を希望するコンテンツホルダー自身が、自社のサイトから独自に配信できるシステムです。その特徴は、従来必要とされたインターネットの知識、インフラ(回線・サーバーなど)への大きな初期投資、運用実績等をまったく必要とせず、「安全」「安価」「便利」に自社コンテンツを配信することが出来ることです。

しかも、高品質、大容量のコンテンツにも、P2P 技術を基本としている為、問題なく対応します。さらにセキュアな P2P 技術を確立したことにより、有料、無料、再生回数や再生期限の設定、コピーの制限など、コンテンツホルダーの希望通りの条件を設定しての配信が可能です。

「SkeedCast」は、WEB2.0 時代の必須課題である、誰でもが参加できる Long Tail ビジネスを実現します。

WEB2.0 時代のセキュアなコンテンツ配信

「SkeedCast」の特徴である、Secure P2P + WEB2.0 について：

- ・ セキュアな P2P を実現する「SkeedTech」：

「SkeedCast」を構成する技術の中心は「SkeedTech」と呼ばれるコア技術です。「SkeedTech」は P2P 技術をサーバーサイドに応用しています。さらに、セキュアな P2P を実現するために「コントロールサーバー」と呼ばれる管理サーバーにおいて、流通経路と流通コンテンツを監視します。また、「コンテンツの流入（投入）」と「コンテンツ流通」と「コンテンツ取得」を物理的に分離し、「意図せぬ流出」や「悪意のある混入」を完全に排除しました。（特許出願中：出願番号2005－276239）

また、「SkeedCast」はコンテンツホルダーの希望にあわせて、「SkeedTech」にウィンドウズメディア DRM（デジタル著作権管理技術）を付加することが出来るため、さらにセキュアなコンテンツ流通が可能となっています。

- ・ P2P 技術が実現する配信コストダウン：

従来のサーバー型配信システムに必要とされた、大容量コンテンツに対応する為のシステムインフラ（大規模サーバー、回線およびバックアップなど）への投資、またそれに伴う人件費（24 時間の運用管理、システム構築作業など）が不要であることから、劇的なコストダウンを実現しました。

- ・ コンテンツホルダーの既存サイトから配信できる利便性：

「SkeedCast」はブラウザベースのインターフェイスを実現している為、コンテンツホルダー自身の既存サイトから配信することができます。新たなインフラが不要であることと同時に、シームレスな配信サービスが可能となっています。

- ・ ユーザービリティの高いサービス：

ユーザーは、「コンテンツナビゲーター」と呼ばれる、Flash ベースのツールでダウンロードしたコンテンツをすばやく楽しむことが出来ます。また、「コンテンツナビゲーター」を作るためのインターフェイスをオープンにする予定です。これによって、さらにコンテンツの楽しみ方が広がります。

- ・ 開発には金子勇氏が顧問として参画：

「SkeedTech」のもっとも大きな特徴である P2P 技術は、「Winny」の制作者である金子勇氏を顧問に迎え、氏がもつ高いノウハウが活かされて開発されました。

このように「SkeedCast」は、コンテンツホルダーの配信事業への参入障壁を劇的に下げ、かつコンテンツを楽しむユーザーにとって、「Rich で Easy」なサービスの提供が可能となっています。

これまでにない、快適で安全なコンテンツ配信が生む、WEB2.0 時代の革新的なコンテンツ流通環境が誕生したわけです

まずはこの春、動画コンテンツの配信からスタート

「SkeedCast」は、5 月中に試験運用を開始し、本格的なサービス開始は 8 月を予定しています。当初は動画ファイル配信での普及を目指し、映像コンテンツホルダーにとって、安全でもっとも安価なシステムとして提供していく予定です。（今後はデジタル家電、カーナビ、携帯電話、ゲーム機などへ対応。さらにグループウェアへの応用など BtoB 市場へ広範なサービスを提供していきます。）

IIJ、デジタルスケープとの協業によるシナジー効果

IIJ が持つ安定したインフラからの配信をベースにし、「SkeedCast」の信頼性をさらに高めています。

また、ユーザーサイドへのアプローチとして、株式会社デジタルスケープ（本社：東京都渋谷区、以下「デジタルスケープ」）は、同社が運営するデジタルコンテンツのクリエイター発掘・支援サイト“ブロードスター（URL: www.broadstar.jp）”において本システムを利用することで、クリエイターの作品発表の場を充実させると共にコンテンツの流通促進化を目指し、クリエイターへの利益還元の仕事作りを構築していく予定となっております。

究極の配信システムといえる「SkeedCast」の開発は、ドリームポートが行い、インフラの提供を IIJ が行う。さらに新規技術への展開等を IIJ、デジタルスケープとの協業で行うなど、3 社は将来に向かって発展的な関係を築くことができる為、資本提携を含めた包括的な提携を行い、3 月末日に第三者割当てを完了しました。

様々なコンテンツホルダーへの提供による、デジタルコンテンツの本格流通に向けて

ハリウッドでもダウンロード動画配信が開始され、時代の潮流はデジタルコンテンツ配信の本格的な幕開けを迎えています。

私たちの「SkeedCast」は、インディーズからメジャーまで、手軽に配信を実現できるサービスを提供していきます。

記

1. 会社概要

- (1)商号 株式会社 ドリームボート
- ※URL www.dreamboat.co.jp
- (2)サービス名 「SkeedCast」(仮称)
- (3)会社設立日 2005 年 4 月
- (4)本店所在地 京都市中京区烏丸通二条上ル蒔絵屋町 256
- ※東京オフィス 東京都渋谷区恵比寿南 1-20-11 恵比寿三和ビル 2F
電話 03-5721-7388 ファクス 03-5721-2358
報道機関向け問合せアドレス:info@dreamboat.co.jp
- (5)資本金 2 億 1500 万円(4 月 1 日現在)
- (6)事業内容
1. インターネットを媒介としたセールスプロモーションなどの広告に関する
一切の業務
 2. インターネットを媒介とした音楽、映像配信システムの構築、運営
 3. 音楽ソフトの及び映像ソフトの企画、制作、販売
 4. 著作権の取得、管理、使用許諾及び仲介
 5. 前各号に附帯する一切の業務

(7)取締役

代表取締役社長 美馬 敬

代表取締役副社長 加藤 弘幸

取締役 桂 充弘(弁護士)

取締役 小宮 雅純

取締役 坂田 和敏

取締役 壇 俊光(弁護士)

取締役 美馬 輝三

監査役 矢野 睦子

株式会社インターネットイニシアティブ(IIJ) 代表取締役社長 鈴木幸一 コメント

動画を中心としたデジタルコンテンツのインターネット配信技術として、PtoP 技術をベースとしたダウンロード型システム「SkeedCast」は、ひとつの選択肢として非常に有効な技術であると評価しております。IIJ がもつネットワーク設計・運用ノウハウを活かし、今後、ドリームポート様とは、ネットワークインフラの提供及び技術サポート、IIJ のソリューション展開への活用等を通じて提携を行い、次世代のコンテンツ配信技術の共同研究、共同開発を行っていきたいと考えております。

3. 株式会社デジタルスケープ社長 藤川幸廣様 コメント

この新しい技術は、デジタルコンテンツビジネスの課題解決に大きく寄与するものと思われますし、また大勢のコンテンツクリエイターにとっては朗報です。これまでクリエイター個人が作品発表をすることは経済的理由から高いハードルがありました。

私たちデジタルスケープは、この PtoP 技術を応用したローコストのサーバーシステムを利用し、クリエイターに作品発表の機会を拡大して提供し、コンテンツの流通促進、そしてクリエイターへの利益還元の仕組みを構築してまいりたいと思います。

4. 株式会社ドリームポート社長 美馬敬 コメント

先進国を中心とした各国では、コンテンツ産業の機運が高まりつつありますが、多くの制約や不便さがつきまとい、本格的な流通は実現していません。

その一方でファイル共有ソフトが登場して以来、著作権管理の整備が追いつかないまま、一部のユーザー間では非合法にコンテンツのやりとりが行われているという現状があります。

こうした矛盾を是正し、権利者の利益を保護しながら、ビジネスベースでのデジタルコンテンツの本格的な流通の必要性を考えてきました。そして、これまでにないシステムとサービスを充実させ、P2P 技術を社会的に機能させるコンテンツ配信プラットフォームが「Secure P2P + WEB2.0 配信システム」「SkeedCast」です。

現在の社会は、デジタルコンテンツのノンパッケージ流通という、産業革命以来といっても過言ではない大きな転換期を迎えています。「SkeedCast」による新しい配信環境の樹立は、多くのクリエイターや事業者、また地域の差も関係なく、様々な方に可能性を広げ、多様な市場を切り拓くことが出来るのではないかと、確信いたしております。

ユーザーにも、権利者にも便宜や共感を図りながら、デジタルコンテンツビジネスを持続可能な事業にしていくことは、これからの産業を活性化させていくことであり、若い人達の可能性を育てていくことでもあると私達は考えています。

新しい才能を発掘し、ひとつでも多くの夢がこのプラットフォームから生まれていくように、私達自身もこの事業に大きな夢を賭けているのです。

美馬敬プロフィール

1958 年 京都生まれ

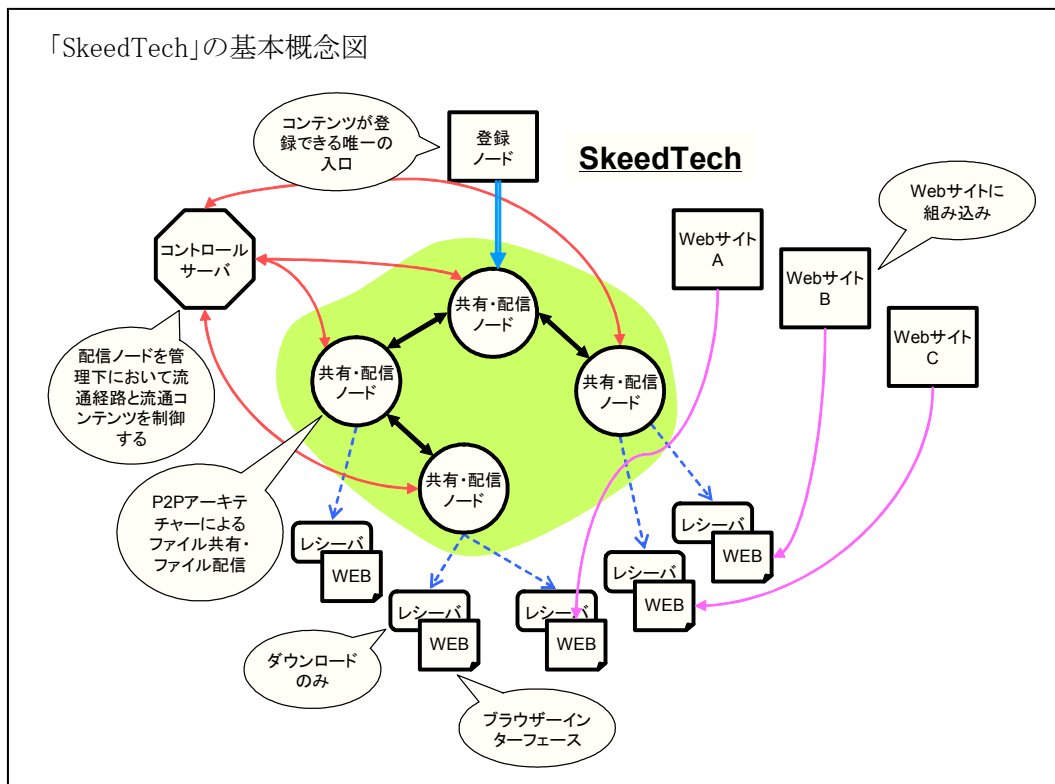
1980 年 同志社大学法学部卒業 同年株式会社アド電通入社

1983 年 株式会社関広入社

2003 年 株式会社関広代表取締役社長就任

2005 年 株式会社ドリームボート設立、代表取締役社長就任

5. 「SkeedTech」について:坂田和敏ドリームポート技術担当取締役 コメント



私達は SkeedTech の開発当初、金子氏とともに「誰にでも解放できるコンテンツ配信システム」を作るという命題を持っていました。そして3つの開発目標を掲げました。

1. P2P 技術のメリットを生かすこと
2. セキュアであり、セキュアに感じること
3. 既存の Web サイトと連動しブラウザから使えること

完成した SkeedTech は、サービス品質を確保しユーザー層を拡大させる為にインターネットのサーバー側のみでコンテンツを流通させます。SkeedTech において P2P 技術は「登録・共有&配信・受信」の3つのパーツに分かれ、連携して動作します。そして Ajax/Flash を始めとするクライアント側の技術も組み合わせることで、どんな Web ページにも組み込むことができます。

SkeedTech ではイリーガルなコンテンツ流通防止の為に、コンテンツの登録は特別な登録ノードだけで行われます。さらにコントロールサーバから共有&配信ノードを管理し、流通ファイルを特別な暗号化を施したファイルのみに限定することで、セキュリティを強化し、利用する権利者・利用者の双方が安心できるシステムになっています。

SkeedTech は、P2P のメリットであるローコストかつスケーラブルなインフラでのコンテンツ配信が可能なので、需要の小さなコンテンツでも利益を出すことができます。また、複数のどんな Web サイトでも簡単に利用できることからコンテンツホルダーが直接配信事業をすることを可能にします。これが SecureP2P+Web2.0 である SkeedTech が実現するロングテールです。SkeedTech はこの他にも

DRM や EC 機能などのコンテンツ配信を支援する多くの機能を備えていきます。今後益々ハイブリット化して進化する SkeeTech を楽しみにしてください。

6. SecureP2P」について:技術顧問 金子勇

私は、今回、「SkeeTech」のうち、「SecureP2P」の開発プロデュースを担当しております。現在のコンテンツ配信は、特定のサーバーにアクセスが集中するC/S型(クライアントサーバ型)が主流ですが、これでは負荷が集中しすぎるために、大容量のコンテンツを効率よく配信するには向いていません。

SkeeTechは、負荷分散に優れたP2Pをベースに、私が、これまでの実証実験によって得たノウハウ、新たに開発したネットワーク管理機能を組み合わせ、セキュアなP2Pを構築しました。

日本は、先進国の中でもずば抜けたインターネットのインフラを有していながら、その実力を十分に活かしきれているとは言い難い状況にあります。

コンテンツ配信のために、新たに生まれたSecureP2Pは、コンテンツ配信を新たな時代へ導くものと確信しています。

7. インターネットイニシアティブ (IIJ) について

株式会社インターネットイニシアティブ (IIJ、証券コード:3774 東証マザーズ、NASDAQ:IIJI)は、1992 年、インターネット接続を商用サービスとして提供するパイオニアとして設立されました。現在では主にハイエンド顧客を対象に、インターネット接続、セキュリティー、メールシステム、インターネット・データセンター、システムインテグレーション、運用管理などの各種ネットワークサービスをトータル・ネットワーク・ソリューションとして提供しています。IIJ についての情報は、www.iiij.ad.jp をご覧下さい。

8. 株式会社デジタルスケープについて:

株式会社デジタルスケープ(デジタルスケープ、証券コード:2430 大証ヘラクレス)は、1995 年に創業し、デジタルクリエイターと IT エンジニアに特化した人材派遣・紹介を主軸にビジネスを展開。現在では、プロダクション機能を有し Web やゲームソフト開発などのコンテンツ制作支援、人材育成トレーニングを行うと共に教育機関への資格検定や教材提供による人材育成支援を行うなどデジタルコンテンツ市場における企業やクリエイターに対し総合的なソリューションを提供しています。

デジタルスケープについての情報は、www.dsp.co.jp をご覧下さい。

以上

添付資料

1. 「SkeedCast」の3つのサービスレベル

「SkeedCast」は、3つのサービスを基本としています。

最小限の要素としては、P2P 技術を基本としたコンテンツ配信システムです。

それにウィンドウズ DRM を加えることによる、コンテンツ管理技術を含めた標準パッケージ。さらに、課金代行を含めたフルパッケージです。

これらは、コンテンツホルダーのニーズに併せて柔軟に構成する事ができるため、コンテンツホルダーの戦略や戦術に沿った配信が可能となります。

